



大船駅の駐輪場整備について要望書を提出

環境整備 大船駅周辺では、西口サイクルパークの閉鎖、東口駐輪場の閉鎖で駐輪可能台数が減少。駐輪需要の把握と、需要に合った駐輪場の整備を求め、大船駅周辺在住の岡田議員、重黒木議員、大石議員、岸本議員、細川の超党派で17日市長あてに要望書を提出した。

(1) 定期利用枠の主を持つ常態化
西口サイクルパークの閑鎖に伴い 大船駅

西口駐輪場、大船駅西口交通広場駐輪場の原付の定期待ち台数はそれぞれ 100 台超え。東口の各市営駐輪場の自転車の定期枠は全て満車。定期契約ができなかった人は一時利用枠での駐輪となり、毎日確定に駐輪できるか不安を抱えての通勤通常が常態化

(3) 日中の一時利用枠の慢性的な満車状態

(2) 口中の一時利用件の慢性的な渋滞状態
朝の8時台にはほぼ満車となるため、特に保育園等に子供を送ってから通勤する者は、自転車以外の通勤方法を検討しなければならず、希望園の縮小に繋がり、就労を断念せざるを得ないという声も。また買い物客が駐輪する場所がないことも課題。

(3) 自転車大型化・バリアフリー未対応

前後かごやチャイルドシート装着等による自転車の大型化や、車体を持ち上げることができない高齢者の増加により、二段ラックへの収納ができずに場内の通路への駐輪も散見される。スロープを上る構造が多いため、高齢者や子連れには利用しづらい。

(4) 公共交通ダイヤの見直しに伴う自転車需要の増加

近年のバス減便等により駐輪ニーズが増加している可能性が高い。市は駐輪需要の実態調査は未実施。路上駐輪の増加や、通勤通学層の市外流出にも繋がりかねない。

【安全事項】

- 1.新規開設や、地下化、立体化、スマートランプ等による駐輪可能台数の増設
 - 2.駐輪需要を把握する実態調査の実施、収容台数の再設定と段階的な増設計画の策定
 - 3.高齢者や子育て層が利用しやすいようスロープ依存型の設計や二段ラックの見直し

R7.8 現在	駐輪場名	種別	定期利用			一次利用
			空状況	収容台数	待ち台数	収容台数
東口	大船駅東口暫定第1 ※1定期利用枠32台超過受け入れ	50~125cc	満	14	5	—
		原付	空	81	0	19
		自転車	満	165	0 ^{※1}	330
	大船駅東口暫定第2	原付	空	56	0	14
		自転車	満	194	43	66
	大船駅東口暫定第3	原付	満	137	0	43
		自転車	満	499	43	300
西口	大船駅西口 ※2屋根のない4階のみ空有り	原付	満	171	168	21
		自転車	空 ^{※2}	528	93	95
	大船駅西口仮設第1	原付	満	106	10	—
	大船駅西口交通広場	原付	満	100	106	10
		自転車	満	900	30	125



各地のオーバーツーリズム対策は？

市民環境常任委員会では10月、小樽市と函館市のオーバーツーリズム対策を視察。小樽市では今年1月頃からインバウンドによるオーバーツーリズムが顕著化。商店街の大型バス駐車場が満車になり、待ち列が車線を埋めてしまう事象や、路線バスに住民が乗り切れない等の問題が発生。また、住宅街にある船見坂がドラマの撮影やSNSの影響で、鎌倉高校前と同じように観光スポットに。今年1月には写真撮影に夢中になった中国人観光客が列車と接触し死亡する事故が発生。小樽市は昨年度中に協議会を発足。観光庁の補助金を申請し、観光バス駐車場周辺への警備員配置、海外インフルエンサーによるマナー啓発、時間帯や場所の分散化コンテンツ(朝ツアーや企画などを開始。国の補助金が使えることを周知し、民間からの事業も募集。民間バス会社からの提案で、バス停にカメラを設置し、乗り切れない場合に臨時便を出す取組も実施。印象的だったことは対応の迅速さ。1月にオーバーツーリズムが顕著化してから年度内に補助金申請を完了し、本年度には事業を開始している。もう一点は民間との連携の強さ。市の呼びかけに即座に応じ、地域一丸となってまちづくりを行っている姿勢が印象的。小樽市のオーバーツーリズム対策事業の総額は約9千万円。観光庁の補助金は最大2/3。市の持ち出し額は3千万程度。鎌倉市も補助金を活用し積極的な対策を行うべき。函館市の代表的な観光スポットの函館山では、夜景を目当てに日没の時間は狭い展望台に多くの観光客が押し寄せ危険な状態に。帰りのバスやロープウェイは最大90分待ち。市は時間帯や場所の分散化を目指し混雑状況配信システムの導入や、時間をずらしての利用に特典がつく事業等に取り組んでいる。また、函館山から続く八幡坂は景色が良く海外SNS等で話題となり、鎌倉高校前と同じく道路に出て写真を撮る観光客が問題に。車の通行を制限するなどの対策を検討。鎌倉市と函館市の観光の大きな違いは宿泊率。函館は夜景や教会のライトアップ、イルミネーション、朝市等の夜間早朝コンテンツが充実しており宿泊率は60%超。(鎌倉市は令和5年度で6.5%)鎌倉市も神社仏閣のライトアップ等、夜間早朝のコンテンツで時間帯の分散化、宿泊率の上昇が可能では。令和8年4月からは北海道、函館市、小樽市でも宿泊税を導入予定。鎌倉市に宿泊施設は少ないものの、オーバーツーリズム対策の財源として導入を検討すべきでは。

鎌倉市議会議員
細川 まなか

地域の課題を
お聞かせください！

